

生活支援の基本

生き場づくり

住居資源の確保

- 精神病院(施設)は生活の場(人生の基地)ではない
- 出身家庭への退院が困難であっても……
- 家族扶養に頼っているのはおかしい
- 生活技術が十分でなくても補完する条件を整えれば生活は可能
- 食事の確保はいろいろ工夫
- 本人たちが「再入院はしたくない」をかなえるために、服薬などの再発しない工夫を提案し、本人が試行錯誤しながら選択して医療の上手な使い方を生活の支援の基本に
- 本人の城づくり 病気であっても安心して暮らせる
この基地を作ろうとソーシャルワーカー仲間が始めた

1982年

制度がない時代から地域ケアの活動を開始
共同住居(開設10年後の1992年から北海道単独事業)

朋友荘 (最初に作られた住居資源/16名/食事付/1982年)

**365日3食付から始めた
管理人を置かない 4.5畳の城・基地づくり**



生き場づくり 住居資源

必要だから増やしてきた 2006年まで

■ 朋友荘(1982年)	定員16人	食事付
■ 悠夢ハイツ(1988年)	定員20人	食事付
■ 石田荘(1993年)	定員8名	自炊＋配食
■ ハイツローヤル(1995年)	定員5名	自炊
■ フラワーレジデンス(1997年)	定員14名	自炊
■ コーポ長浜(1999年)	定員10名	自炊
■ スカイコーポこもれび(2000年)	定員6名	食事付
■ スカイコーポひだまり(2000年)	定員6名	食事付
■ スカイコーポビエント(2000年)	定員6名	食事付
■ 第一飯高荘(2000年)	定員4名	自炊＋配食
■ マナベハイツ(2000年)	定員5名	自炊
■ ひまわり荘(2003年)	定員11名	食事付
■ イランカラプテ(2008年)	定員8名	食事付
■ この他に 11住居 全部で約250人分以上		

住居はすべて借家です

グループホームもあり管理住居もあり



朋友荘 1982



管理住居フラワーレジデンス1998



悠夢ハイツ 1988



ひまわり荘 1999



管理住居ハイツローヤル 2000



ドリームハイツ 1999



コーポ長浜 自炊型 1999



2008.11.22



スカイコーポ 1995



イランカラプテ 2008





すみれ荘 1996



とのうち荘 2002



柴田下宿 2000



さたけ荘 1995



高橋下宿 1995



いしだ荘 1993



あおぞら荘 1988